

令和 4 年度第 1 回環境審議会でのご意見

- (1)過去に振り返り同じ数、状態に戻すのが改善なのか現在の状況を保持していくのが最良なのか色々考え方があと思う。
湿地の環境が今まで通り保たれることが難しいと考えられることから 今ある環境を維持し、悪化させずに守っていくことがこれからにつながると思う。達成目標を「生物多様性の維持」にしたほうが良いのではないか。
- (2)生息環境ごとの鳥類の内訳が確認できる資料があると良いと思う。

回答

- (1)生物多様性いちかわ戦略では、短期目標の指標 No1 について、2025 年度の達成目標を「生物多様性の回復」としていました。
『回復』の基準年について設定がなく評価が困難であることから、「生物多様性の『維持』」とし、鳥類数を把握することで、行徳近郊緑地における生物多様性の状況を確認していきます。
- (2)行徳鳥獣保護区鳥類調査は、行徳近郊緑地の調査区域を 10 区画に分け行徳自然保護くらが調査を行っています。
各区域により多少の増減が見られるものの、鳥類数は調査地域全体的に維持されている状態です。
その中で水鳥に関しては若干減少傾向がみられるため、水鳥の数が増えるように引き続き干潟環境を整備していくとのこと。
鳥類の生息環境(湿地に生息する鳥、林に生息する鳥、など)については、分類がされていないことから分類方法や評価を含め、どのようにお示しできるか検討します。